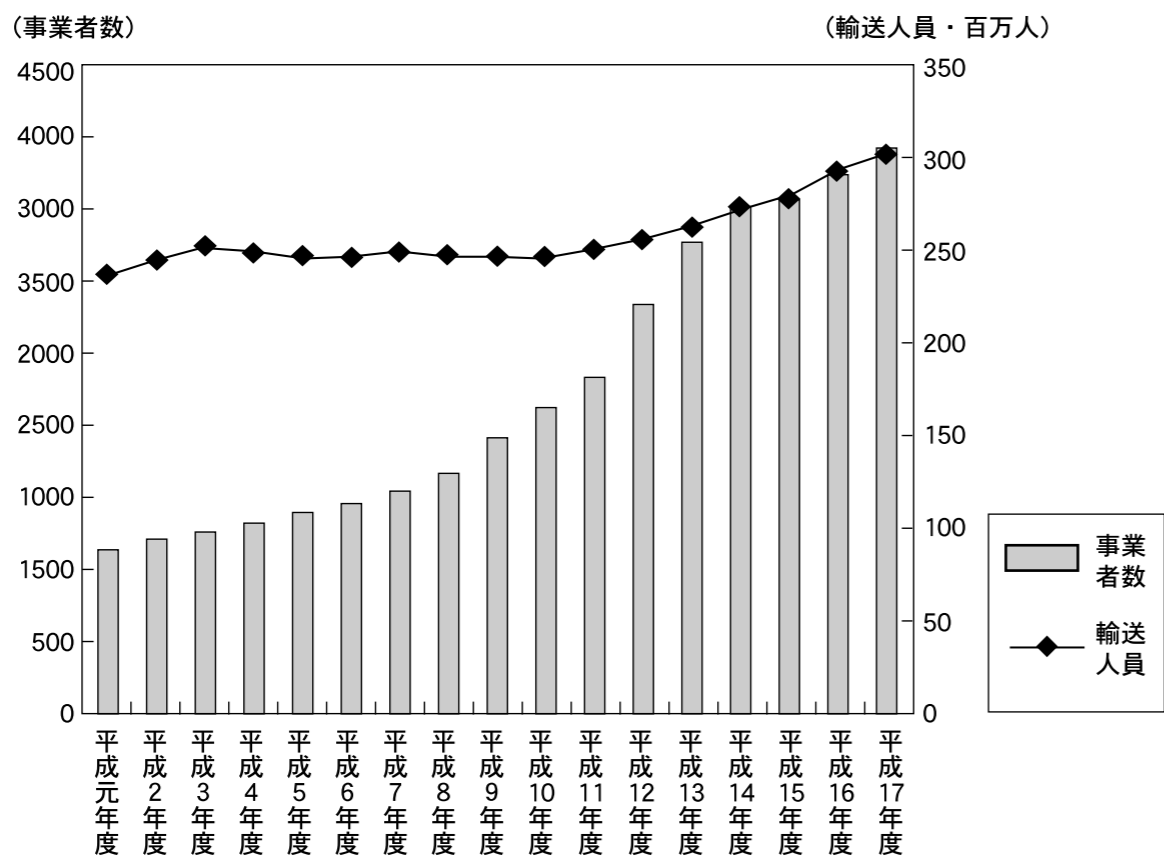


運賃・乗員の質が業者選定のカギ

旅行者、貸切バス事業者への調査から

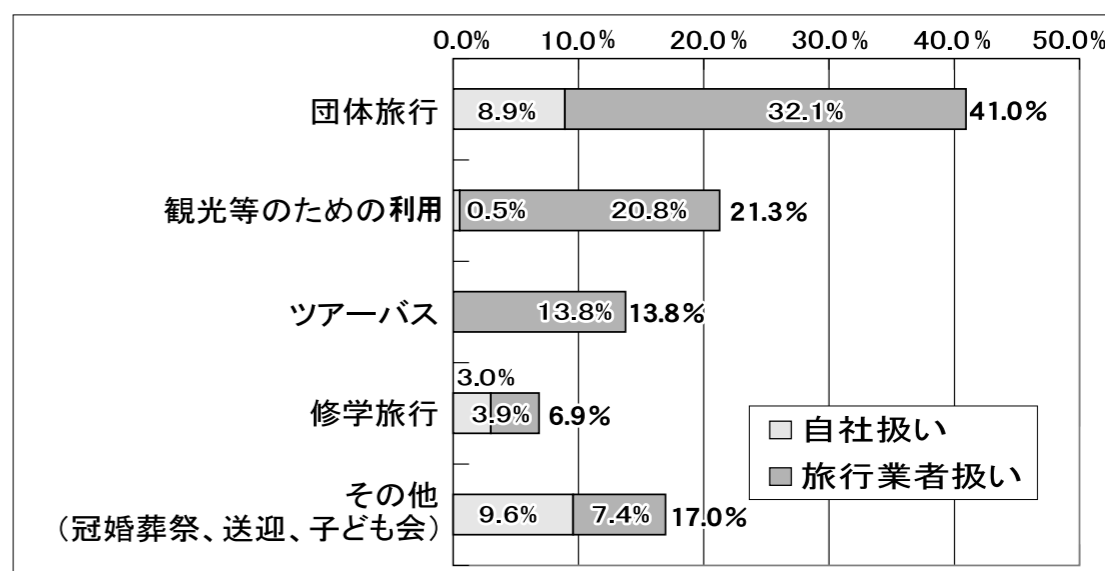
貸切バスの事業者数と輸送人数



00年のバス事業の規制緩和以降、従来の貸切事業に加え、ツアーバスのような新しい需要への新規参入が進んだ。これをきっかけにツアーバスの安全性や貸切バスの運賃問題など、貸切バスを利用した旅行商品についてさまざまな問題が噴出している。問題解決の足がかりとして、貸切バスを監督する国土交通省自動車交通局旅客課は2、3月に、バス事業者に対して「バスの運行形態等に関する調査」(4,479事業者対象、有効回収数2,704事業者。うち貸し切り事業者2,529事業者)「貸切バス事業者に対するヒアリング調査」(20事業者対象)を、旅行者に対しては「貸切バスを利用した国内旅行商品の実態調査」(105社対象、有効回収数51社)を行った。その調査結果から、旅行者とバス事業者が互いに要求している事柄にずれがあることがわかった。

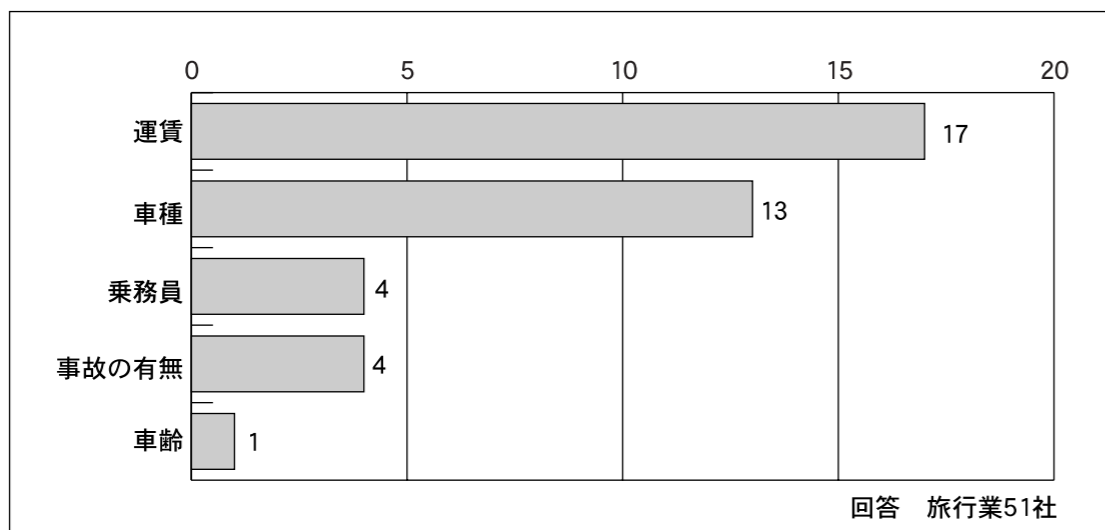
運賃・旅程重視 安全性は軽視しがち

貸切バス運行形態別割合

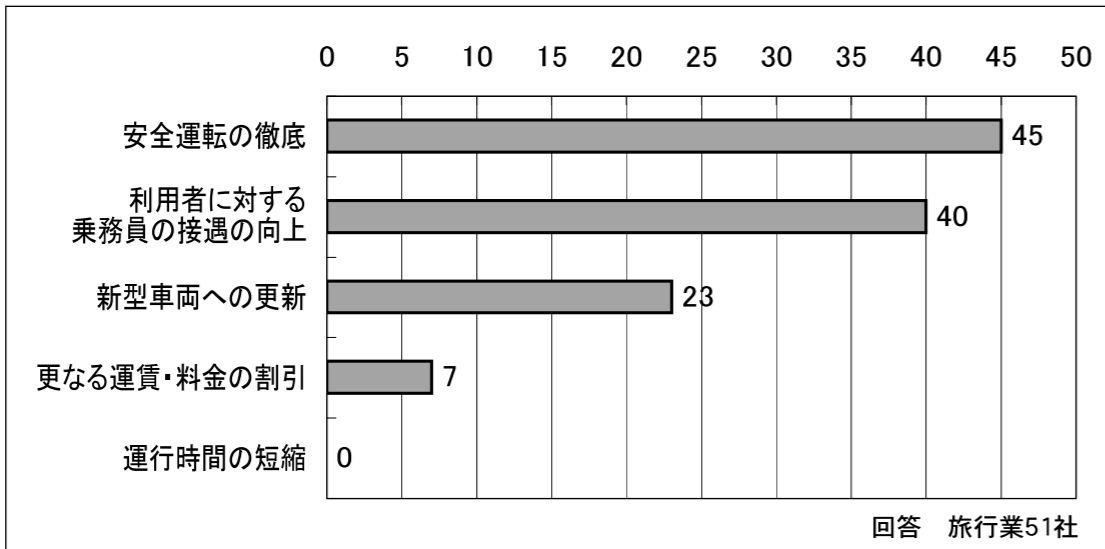


※ツアーバスはハウスエージェントの場合も旅行者扱いに含めた。

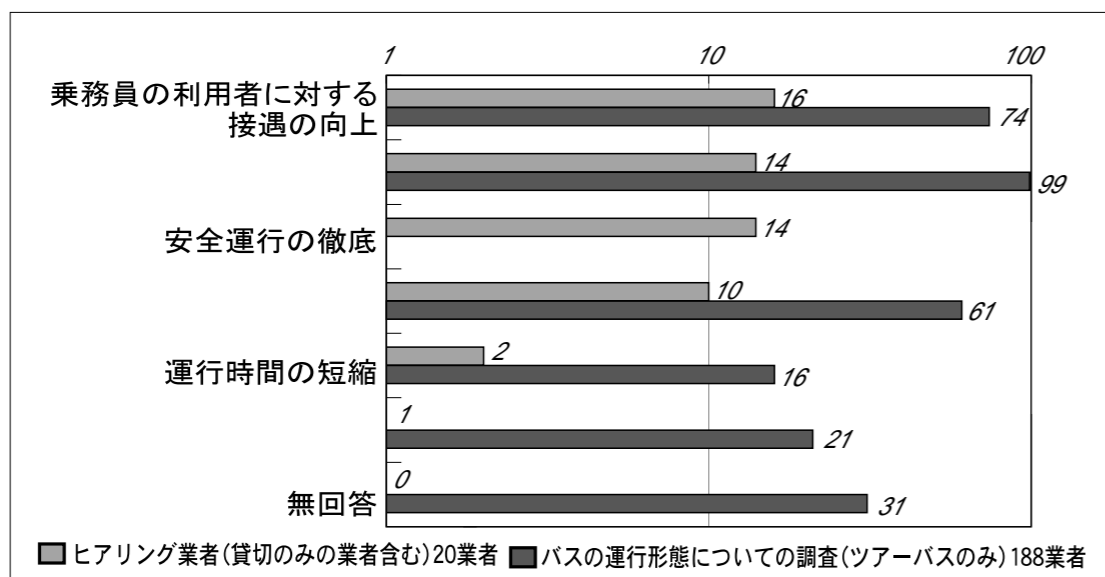
貸切バス事業者を選ぶのに重視する点



貸切バス事業者に望むこと (複数回答可)



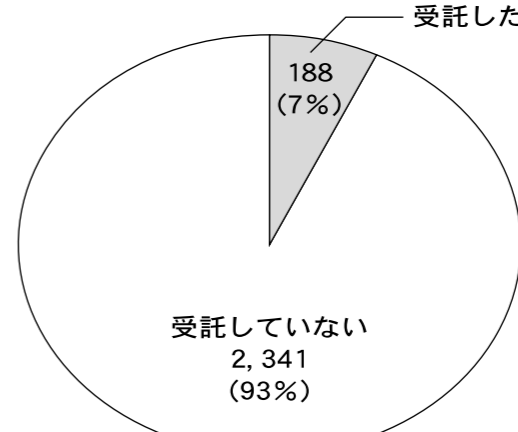
旅行者から求められていること (複数回答可)



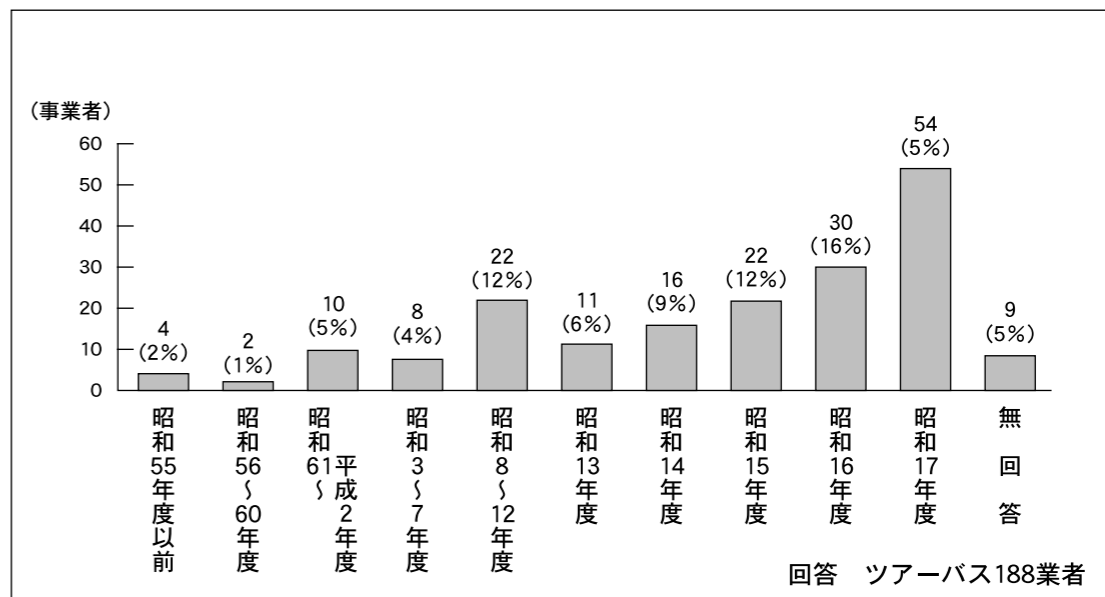
旅行者に望むこと

距離や時間に応じた適正な運賃での受注。
乗務員・車両・燃料等を考えた場合、無理な運賃水準であることの理解を。
時間に余裕をもった旅行行程の作成を
直前のキャンセル、予定外の行き先変更を行わないこと。
貸切バスも運賃、営業区域、拘束時間、走行キロなどについて理解してもらいたい。
旅行者とバス業者は対等ではない。無理な注文が多すぎる
ツアーバスも運賃が安い、大手旅行者からの依頼はさらに安い。
ガイド料金は、回転手数料の対象から除外を。
目的地での駐車場の確保
利益追求のみで、お客さまに楽しい旅を提供する精神が薄い。

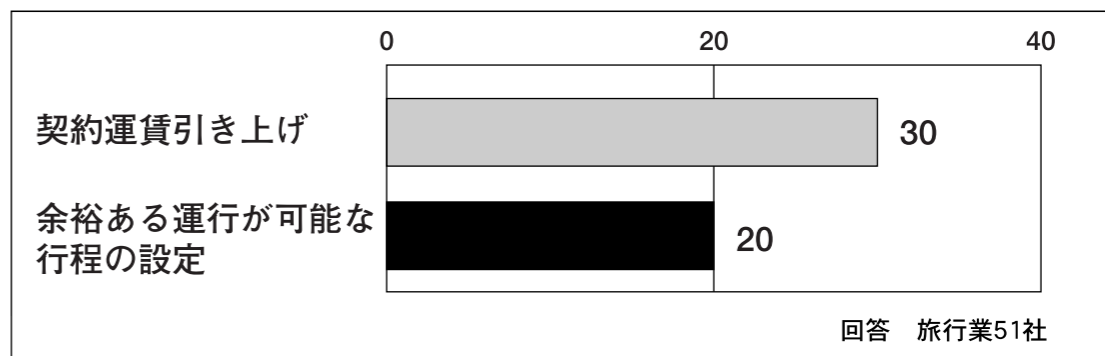
ツアーバスを平成17年度に受託したか



いつ頃からツアーバスを始めたか



貸切バス事業者から求められていること (複数回答可)



ツアーバスとは、旅行者が貸切バスを使って募集型企画旅行で行うもの。単に2地点間の移動を目的とする。路線バスと区別するために「ツアーバス」と呼ぶ。

調査データ